

会議録

令和6年9月18日提出

会議の名称	西東京市公民館運営審議会 令和6年度第3回定例会
開催日時	令和6年7月17日(水) 18時30分から20時35分まで
開催場所	柳沢公民館 視聴覚室
出席者	委員：西原みどり(会長)、小須田厚子(副会長)、辻康一、高橋浩一、高井正、荒井容子、荒井茂、小池教之、下坂小百合、石川健、青木美紀子、ギログリー江美、城石雅行、松本静 職員：福所館長、市川事業係長、山本分館長(田無)、根岸分館長(芝久保)、一之瀬分館長(谷戸)、安島分館長(保谷駅前)
欠席者	なし
議題	1 審議事項 (1) 令和6年度第1回定例会会議録(案)について(資料1) (2) 令和6年度第2回定例会会議録(案)について 2 主催事業について (1) 令和5年度公民館主催事業報告について(資料2) (2) 令和6年度公民館主催事業計画について(資料3) 3 報告事項 (1) 行政報告 (2) 公民館だより編集室報告 (3) 東京都公民館連絡協議会委員部会運営委員会報告 4 事務連絡及び情報交換 (1) 公運審紹介紙について (2) 令和5年度公民館事業評価について (3) 令和6年度第4回定例会の開催について
会議資料の名称	【配付資料】 資料1 令和6年度第1回定例会会議録(案) 資料2 令和5年度公民館主催事業報告書 資料3 令和6年度公民館主催事業計画書
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録
傍聴者	☒ あり(2名) ☐ なし
会議内容	
1 審議事項 (1) 令和6年度第1回定例会会議録(案)について(資料1) ●令和6年度第1回定例会会議録(案)について承認 (2) 令和6年度第2回定例会会議録(案)について ●令和6年度第2回定例会会議録(案)については、各自内容を確認し、1週間以内を目途に修正、意見がある場合、事務局に連絡することとする。 2 主催事業について (1) 令和5年度公民館主催事業報告について(資料2) ○A委員 多文化共生講座「ウクライナ避難民・難民支援から多文化共生・平和を考える～私たちができること～」(保谷駅前)について、参加人数が少なかったようだが、時期が正月明けの夜7時から9時で内容も誰もが来るというものではないと思うが、参加された方の年齢層を教えてください。 ○分館長(保谷駅前) 参加された方は、50代、60代の方がメインである。	

○A委員

1月1日に能登半島地震があり、講座は、その週の1月6日から始まっている。講師は能登の被災地に炊き出し支援等に行かれており、避難民支援と共通することもあるということから、急遽、能登での経験を話してくださったところ、参加者の皆さんも興味深く聞かれたという記述を読み、感謝の気持ちを抱いた。その状況を伺いたい。

○分館長（保谷駅前）

講師から能登の被災地支援の経験についても話したいという要望があったので、参加者の了解を得た上でお話をしていただいた。参加者からも良かったという感想をいただいている。

○B委員

多文化共生講座（保谷駅前）について、5月の定例会で多文化カフェ「ウクライナ避難民の方々との交流会～紅茶を飲みながら気軽に交流～」（保谷駅前）の報告書が提出された際、荒井茂委員から、参加者だけでなく、話をされたウクライナ避難民の方たちの感想も聞いて欲しいという意見が出されたと思うが、今回は、その点を聞くことができたのかどうか、伺いたい。

2022年2月のロシアによるウクライナ侵攻は衝撃的だったが、公民館事業の中で平和の問題を何等かの形で取り上げられないかという公運審からの要望を受け、この間、各公民館が努力してきたのだと思う。その後、イスラエルによるガザ地区への軍事攻撃が起き、戦争の問題を非常に深く考えなければならない状況になった。難民支援という観点だけでなく、語りあって考えてみたいという人たちがいるのではないかと思うので、いずれそういう企画にもつなげることができればと思う。二点目は、難民支援の問題でいうと、日本で難民申請をしていた方々がひどい状況になって亡くなった問題があるが、このことについても考える講座も企画できるとよいと思う。この二つの発展の方向を今後意識していただけるとよい。あまり身近な問題ではないという感覚でとらえられる状況が変わってきている中で、問いかける公民館として行うとよいのではないかと思う。

○分館長（保谷駅前）

ウクライナ避難民の方たちには、多文化共生講座の第1回でウクライナ避難民の方たちに思い等を話していただいた。令和6年度については、多文化共生と平和をテーマに、11月の平日の夜間に3回から4回の連続講座で実施する方向で検討している。内容については、クルドやミャンマーの難民の方たちの問題や、日本の入管収容施設で難民申請中の方が亡くなったことなどを踏まえ、検討していければと思う。

○C委員

私が聞いたかったのは、我々は聞いて良かったと思っていても、話した本人がどうだったかということ。話をした当事者にとってどうだったかということを追ってフォローしながら事業を行っていくことが大事だと思った。受講者側の感想だけではなく話す側の感想も聞くことが大事だと思う。

○A委員

ウクライナ避難民の方が、具体的に話された感想などがあれば紹介していただきたい。

○分館長（保谷駅前）

日本に来て、いろいろな困り事があること、悩みを抱えながら生活しているというお話をしていた。

○B委員

C委員の質問は、話をしてくださったウクライナ避難民の方たちの事業に対しての感想はどうだったかという質問。今後、同様の事業を行う時は、話をしてくださった方が、話をしたことや参加者とやりとりに対して、どのような感想を持ったか、事業についてどのように思ったか等を聞いておくという指摘だと思う。次回の講座は、この点を忘れずに実施していただきたい。

○分館長（保谷駅前）

承知した。

(2) 令和6年度公民館主催事業計画について(資料2)

○D委員

小学生親子料理講座「子育て中の男性あつまれ♪ パパッと、ごちそうレシピ〜秋の思い出づくりクッキング!〜」(田無)について、対象は父親と子ども限定ということか。そうであれば、講座名は「小学生 父と子の料理講座」のほうがよいのではないか。対象を確認したい。

○分館長(田無)

男性の子育て参加を目標に企画した講座で、父親が参加できない場合は、祖父やおじなど男性の方に参加していただく。田無公民館としても「小学生と父親の料理講座」としたいところだが、以前、学校から「父親がいない子どももいるので、そういうチラシを全校児童に配るわけにはいかない」と指摘されたことがあるので、「子育て中の男性集まれ」という、父親だけでなく、祖父やおじでもいいという表現にさせていただいている。

○D委員

母親との組み合わせでは参加できないということによいか。

○分館長(田無)

そのとおりである。

男性の子育て参加ということで、子育て中の男性と子どもがコミュニケーションの時間を持つことを主眼に企画している。

○E委員

小学生親子料理講座(田無)について、事業目的・事業内容に「初心者でも簡単に美味しい料理が作れることを学ぶ」とあるが、料理に慣れている男性も参加していいことがわかると思う。料理をしたことはないけどやってみようという方ももちろんだが、料理することは普通になっているから子どもと2人で行こうとか、さらに腕を磨こうとか、母親に自由な時間をあげようかという意味で参加できるのであれば、それが分かったといいなと思った。メニューについて、子どもが食いつかないような材料が入っているのが、良いなと思った。子どもは思ったより好き嫌いがなく許容範囲が広いので、子どもが好きなものに寄り添っていないけれど、結果おいしいんだなというメニューが面白いと思った。

○分館長(田無)

普段から料理をやっている方、あまりやっていない方、両方が参加できる講座となっている。普段食べにくいなと思っても、皆で作ればこんなにおいしい、混ぜていけば食べられるというようなそういうところも狙っている。ほうれん草の胡麻和えを胡麻をするところからやったところ、それがおいしいと子どもたちから大評判であったため、こういった機会にあまり口にしなかったものも好きになっていただければと思う。

○A委員

小学生親子料理講座(田無)について、講師は地域で活動したり、テレビに出たり、本を出したりしている方で、とても食べやすく料理するので人気がある。以前、児童館で、2、3歳の子どもと母親を対象とした料理教室の講師をされた。参加者が楽しく料理できると思う。期待している。

○F委員

小学生親子料理講座(田無)について、母親が忙しくて父親がもっぱら家庭内のことをやっているという家庭もあると思うが、対象について父子家庭も考えているのか。

○分館長(田無)

家庭環境は問わない。どんな家庭環境の方でも参加できるように企画している。

○B委員

小学生親子料理講座(田無)について、父子家庭は当然、子どもと父親で助け合って料理をしているであろうという想定で、むしろ父親は働きづめの家庭を対象に、男性の子育て参加ということを促す意図、子育てにかかわっていない男性を応援する意図があるのではないかと考える。

○分館長(田無)

委員の言われたとおりである。

○B委員

石川委員が捉えていたこととは逆の想定の対象として考えているという理解をすればよいの

ではないか。

○F委員

対象を狭く考えてしまった。父子家庭で、日常、余裕がない状態で親子で過ごしているという方たちにも目を向けて、というように一瞬思った。

○B委員

父子家庭で十分豊かに料理を作れない方も支えるという発想もありえるから、こういう方々も参加しやすいものが必要ではないかと思った。

材料費1人700円というのは一般的なのか。西東京市公民館の料理講座で、1回2人で1,400円は一般的なものとして考えてよいのか、確認しておきたい。生活が厳しい方だと700円がぎりぎりという方もいるのではないかな。

○分館長（田無）

かなり物価が高騰している。昨年度は材料費1人750円で全4回で実施したが、応募者はお断りするほど多かった。昨年度、材料費について質問をいただいたので、今年度は物価がかなり高騰しているが、少しでも金額を下げることはできないかと考え、講師に努力していただき、1人700円、2人で1,400円とした。

○A委員

女性のための講座（保育付き）「子どもの安全基地になる～お金の価値では測れない学びと仲間づくりのヒント」（ひばりが丘）について、第4回の内容として、「子どもの人権について語り合う保育士の職員集団づくりと幼児教育実践」とあるが、母親向けの講座の中でこの内容はどうか。これだけ見ると保育士向けと受け取れるが、内容は子どもの人権の目線から保育を語り合うものかと思う。また、備考欄に「学習者のメンターとしての役割を担ってもらうため、前期女性講座の参加者のうち5名程度、継続して学習できるよう優先する」とあるが、保育室に子どもを預ける人も含めるのか教えていただきたい。

○事業係長

前期の女性のための講座では自分に焦点を当てた学びであったが、その背景にある社会の構造的な問題を学ぶのが今回の講座の趣旨である。保育士向けの話であったとしてもそれを聞くことによって、保育のシステムやどのような教育がなされているか知るところが重要であると考え、担当者はこれを組み込んでいると思う。今、いただいたご意見を担当者に伝え、内容を深めていきたいと思う。

ファシリテーター的な役割も果たしていただく前期講座参加者の方々には、保育室に子どもを預けている方、預けていない方、子どもがいない方がいる。

○A委員

そうすると、保育の人数は、その方たちの人数を減らしたかたちで募集するのか。

○事業係長

その点については確認できていない。

○A委員

できるだけ初めての方が参加できるような数で確保していただきたい。

保育士の職員集団の話については、保育士とも価値観を共有しないといけないので、その内容を保育士に伝える機会を持ってもらえるとよいと思う。

教養講座「日本の伝統文化にふれてみよう～保谷和太鼓回による和太鼓体験～」（谷戸）は、申込が多いと思う。講座終了後に続けてやりたいという声が出てくるのではないかな。その場合の対応をどのように考えているか教えていただきたい。

○分館長（谷戸）

和太鼓をめぐるっては騒音問題などもある。谷戸公民館は図書館との併施設設であるので、自主サークル化については、今後、検討したい。

○A委員

その点も保谷和太鼓さんにフォローしていただくのか。

○分館長（谷戸）

そのように考えている。

○G委員

大人のための文章講座（保育付き）「My Storyを楽しもう」（谷戸）について、2点伺いたい。「マイストーリー」が、どんな意味合いなのかを知りたいと思い、各回の内容を確認したが、事業名がわかりにくいのではないかと、という印象を受けた。「マイストーリー」という言葉には自己紹介を効果的に書くようなイメージがあり、自伝のような半生を書く講座なのかなと思ってしまいが、キャッチコピーやSNSで端的に伝える書き方等を学ぶ中身も含まれているので、そこも含めて開催案内をした方がよいと思う。2点目は、保育付きになっていることについて、備考欄には初めて保育付き講座に参加する方を優先とあり、講座の第6回と第11回では保育室の報告が行われる。また、目的達成の取組・課題欄の3点目には保育室の交流があげられており、保育が重視されているのかなと思う。内容がビジネス的な内容に感じるので、既に保育園に子どもを預けて働いている方からの応募もあるかもしれない。その場合、保育室に子どもを預けないので、抽選にかからない可能性があるのかなと思った。

○分館長（谷戸）

事業名については、講座内容をわかりやすく伝えられるようなものに見直したい。

○A委員

大人のための文章講座（谷戸）について、幼い子どもがいる母親の中には文章を書くことを望んでいる方もいると思うので、ビジネス的な観点もあるが、今の自分を見つめるという観点も伝わるように広報を工夫していただけるとよいと思う。

○D委員

大人のための文章講座（谷戸）について、感想だが、ふつう社会教育の講座で「マイストーリー」といえば自分史を書くことを指す場合が多い。今回の講座はビジネス的な感じを受けるし、スキルを高めるというイメージがとても強い。社会教育では取り組んでこなかったところであり、今まで公民館主催講座に参加しなかった方が来る可能性があり、一つのチャレンジかと思う。スキルを高める内容であるとしても、自分のことを考え、思ったことを言葉にする、表現して伝えるということなので、いろいろなものを生み出すと思う。そういった視点でどのように進んでいくのか、報告を楽しみにしている。キャッチコピーでも言葉の力は大きく、言葉の力を改めて確認しながら自分をどう伝えていくのか、どんな展開をしていくのか楽しみに報告を待ちたい。

○B委員

大人のための文章講座（谷戸）は創作であり、自分史の講座ではない。創作であり、技術的なことを学ぶという内容でありながら、それを通じて自分を知るというようなことも事業目的・内容に入っているが、微妙に違うところがある。西東京市では、このところ、自分史や自分の日々のことを書いて語り合うという講座は行われていないと思うが、社会教育の歴史では高齢者の方が自分の生きてきた道を書いて語り合っ文芸集につなげるという典型的な実践がある。今回の講座とは別に、いずれそういう講座にも挑戦してみるとよいのではないかなと思う。他の委員が話されたように、募集にあたっては、創作ということでどう磨くのか、それも単に技術だけではなく、自分を知ることにもなるとははっきりわかるように書くとういと思う。

○A委員

女性のための講座（保育付き）「絵本とわらべうたでハッピーな毎日」（田無）では、西東京市図書館についても取り上げ、「図書館も本を借りるだけではなく、ライフステージに合わせたイベントを企画していることを今回の講座を通して知る機会とする」とあるが、中央図書館職員がかかわるのか。

○分館長（田無）

講座の第9回目で、西東京市図書館職員に講師として来ていただく予定である。

○B委員

関連して、図書館でライフステージに合わせてイベントを企画しているというのは、子どもは読み聞かせをイメージするが、他には高齢者を対象のものなどあるか。

○分館長（田無）

幼児向けには幼児コーナーがあり、そこで読み聞かせがある。8月には小学生を対象として盲導犬と一緒に暮らしている方からお話を伺うとのことで実際に盲導犬と一緒に連れてきていただく講座も企画されている。公民館を会場として使用した図書館主催の講座もあり、バラエ

ティに富んで実施されている。

○B委員

今の盲導犬というのは図書館と関わらせてどういう意図でやられるのか。図書館が事業をやるのと公民館が事業をやるのでは枠が違うと思う。図書館もライフステージに合わせて事業を実施する場合は図書館の専門性を活かして行うのだと思うが、そのあたりはどのように伝わるのか。公民館との連携があって紹介できるのであれば、図書館の枠以上にやるのはあまり意味がないと思うが、そのあたりはどのようにとらえているのかと思う。

○A委員

女性のための講座（田無）については、図書館と併設している田無公民館だからできる講座という意味で取り組まれていることと理解した。また、報告なども楽しみに待ちたい。

○H委員

女性のための講座（田無）について、第8回目は「自立に向けて子どもの拘りへの対応について」というテーマで公開講座として実施されるが、発達障害のある子どもがハッピーに暮らすヒントということで話してくださるということで興味を持った。発達障害のある子どもについて、皆でどういうふうにふれあっていけばいいか学びあう機会にしていきたいと思います。今回は保育付き講座なので午前中に実施されるが、悩んでいるのはむしろ学齢期の子どもがいる母親であり、担当する教師も悩むと思うので、別の時間帯で新たに企画していただければいいと思う。

○分館長（田無）

今後の事業計画の中で検討させていただければと思う。

3 報告事項

(1) 行政報告

○公民館長

教育委員会定例会及び社会教育委員の研修会に参加したので報告する。

教育委員会定例会は6月25日に行われたが、特に公民館に関する質疑はなかった。

社会教育委員の研修会は6月28日に「新たな時代における社会教育のあり方～多様な人々がつながるネットワークづくりを通して～」をテーマに、公民館長と保谷駅前公民館の専門員が参加し、公民館に関する実務や取組などについて、トークセッション形式で行われた。様々な質疑応答を通じて公民館の現状や新たな取組などを伝えることができ、大変有意義な研修会だった。

(2) 公民館だより編集室報告

- 担当委員より、7月8日開催の公民館だより編集室会議について報告。10月1日号一面特集等について検討した。

(3) 東京都公民館連絡協議会委員部会運営委員会報告

- 担当委員より6月27日開催の委員部会運営委員会について報告

4 事務連絡及び情報交換

(1) 公運審紹介紙について

- 第1回利用者懇談会で配付する公運審紹介紙の内容について検討

(2) 令和5年度公民館事業評価について

- 公民館事業評価の検討日程について確認

(3) 令和6年度第4回定例会の開催について

日時：令和6年8月21日（水）午後6時30分

場所：柳沢公民館 視聴覚室